

保護すべき福井県の淡水魚類

加藤 文 男

これまで福井県に生息する淡水魚類（円口類も含む）として、筆者は23科64種を確認しているが、近年の水質汚濁や生息環境の破壊などにより、本県に生息する淡水魚類全体が減少の傾向にある。したがって現在は、淡水魚類全般にわたる保護対策を考えなければならない時期にきている。筆者は昭和53年に、環境庁自然保護局が第2回の自然環境保全基礎調査を行った際、福井県の淡水魚類の部を担当したので、以下に福井県に生息する淡水魚類のうち、特にその減少が甚しく今後の強い保護対策を必要としている魚種について述べたい。

1. トゲウオ科魚類

(1) イトヨ *Gasterosteus aculeatus aculeatus*

降海型と陸封型の2型が知られ、大野盆地に点在する湧水地に生息するのは陸封型のイトヨである（図1A）。昭和9年5月1日に国の天然記念物に指定され、比較的大きい湧水池の本願清水（面積1,500㎡、大野市糸魚町）がその指定地域になっている。しかし近年の秋季～冬季に起こる湧水涸渇により、イトヨの生息は困難となり壊滅的な打撃を受けるに至った。湧水涸渇の現状とイトヨの生息については、「大野盆地における陸封型イトヨの生態」（田中・平井・加藤，1973）の報告に詳しく、早急に抜本的な保護対策を必要としている。

次に降海型のイトヨ（図1B）は、九頭竜川、北潟湖、三方湖などで5月頃溯上するものがみられるが、これも陸封型イトヨと同様減少しており今後の保護が必要である。

(2) トミヨ *Pungitius sinensis*

福井県におけるトミヨは、これまで鯖江市五郎丸町と武生市五分市町上真柄に生息が知られていた。五郎丸町のトミヨはすでに約30年前に絶滅したものと思われる。また、上真柄のトミヨは筆者が昭和49年までは生息を確認していたが、昭和53年の調査では確認できず絶滅したものと思われる。両地域とも湧水の涸渇や埋立によるもので、まことに残念なことである。

上記のイトヨ、トミヨを含むトゲウオ科魚類は、巣を作って産卵する特異な習性を持ち、生物の生態や進化を考える上で大変貴重な魚である。現在大野市に生息するイトヨだけでも是非保護対策を講じて、大切な自然の財産を守らなければならないと思う。

2. カジカ科魚類

カマキリ *Cottus kazika* は九頭竜川の中・下流域に生息し、晩秋産卵に降河する。地方名をアラレガコと呼び、昭和10年6月7日に国の天然記念物に指定された。九頭竜川の中流域（大野市～福井市）がその指定地域になっている。一部漁獲が認められ11～12月が漁獲期である。生息数は減少しており、生息環境の悪化が主な原因と思われる。

3. サケ科魚類

サケ *Oncorhynchus keta* は九頭竜川や南川に、サクラマス *O.masou* は九頭竜川、河野川、北川、南川にそれぞれ少数溯上する（加藤，1979）。両種とも年々漁獲高が減少しており，現在漁業としては成立しなくなった。また，ヤマメ *O.masou*（サクラマスの河川型）は九頭竜川水系，河野川，笹の川水系，北川水系などの上流域に生息する（加藤，1979）。しかし，森林の伐採による河川の荒廃や放流アマゴによる生息域の圧迫により，ヤマメの減少が著しく河川によっては絶滅している所もある。サケ，サクラマス，ヤマメは水産資源上重要な魚種であり，河川を水質汚濁から守り，好適な生息環境の保全を図る必要がある。

4. ドジョウ科魚類

(1) アジメドジョウ *Cobitis delicata*（図1C）

河川の中・上流域の清流に生息する。福井県では九頭竜川水系（本流，支流の竹田川，真名川，足羽川，日野川），河野川，笹の川水系（五位川，黒河川）に分布するが，耳川以西の嶺南地域では確認されていない（加藤，1967）。九頭竜川上流（大野郡和泉村）は，以前アジメドジョウの宝庫とさえいわれ，アカザやカジカと共に賞味されるほどであった。しかし，今は生息地のほとんどがダムの湖底に埋まり，わずかに注入河川に生息する程度である。ダム湖や堰堤などで生息域が次第に狭められているので，保護しないと将来絶滅する心配が考えられる。

(2) ホトケドジョウ *Lefua echigonia*

本県ではこれまで南川水系や北川水系で確認されているだけで，分布域が狭く生息数も少ないようである。本種の生息域も河川工事などで破壊されると絶滅する心配も考えられる。

5. タナゴ亜科魚類

アブラボテ *Acheilognathus limbata* はこれまで耳川水系（三方郡美浜町）で確認されているが，分布域が狭く生息数も少ないようである。また，タビラ *A. tabira* は九頭竜川水系でいくらか確認されているが，近年生息数が激減し確認が困難になっている。水質汚濁の他，産卵に使われる二枚貝（タガイ，イシガイなど）の減少も原因しているようであり，保護が必要な魚種と思われる。

6. ギギ科魚類

アカザ *Liobagrus reini* は，以前は本県の河川の中・上流域にごく普通に生息していた魚種であるが，現在では確認が困難なほど生息数が減少してきた。前記アジメドジョウと同様に，河川工事などで生息域が破壊され，急速に減少してきたものと思われる。

以上，特に保護が必要な福井県の淡水魚類として，イトヨ，カマキリ，サケ，サクラマス，ヤマメ，アジメドジョウ，ホトケドジョウ，アブラボテ，タビラ，アカザをあげた。この他に，分布が三方湖という一地域に限られている魚種に，ハス *Opsariichthys uncirostris* とイチモンジタ

ナゴ *A. cyanostigma* があり、分布上注目すべき魚なので、これらも保護すべき魚種に入れたい。

以上に述べた魚種を保護するには、その生息域を水質汚濁や破壊から守り、好適な生息環境を確保する必要がある。魚も人間も共に生物の一員としてこの緑の地球に誕生してきた。彼等との共存という思想がなければ、自然保護は御題目となり、自然は破壊されてやがて人間自体が減びることになるであろう。

引用文献

加藤文男 1967. アジメドジョウについて. 福井県博物同好会会報, (14):19~23, fig. 1.

加藤文男 1979. 福井県のサケ科魚類とその分布. 武高評論, (10):7~13, figs. 1~2.

田中晋・平井賢一・加藤文男 1973. 大野盆地における陸封型イトヨの生態. 1~48. (大野市教育委員会).

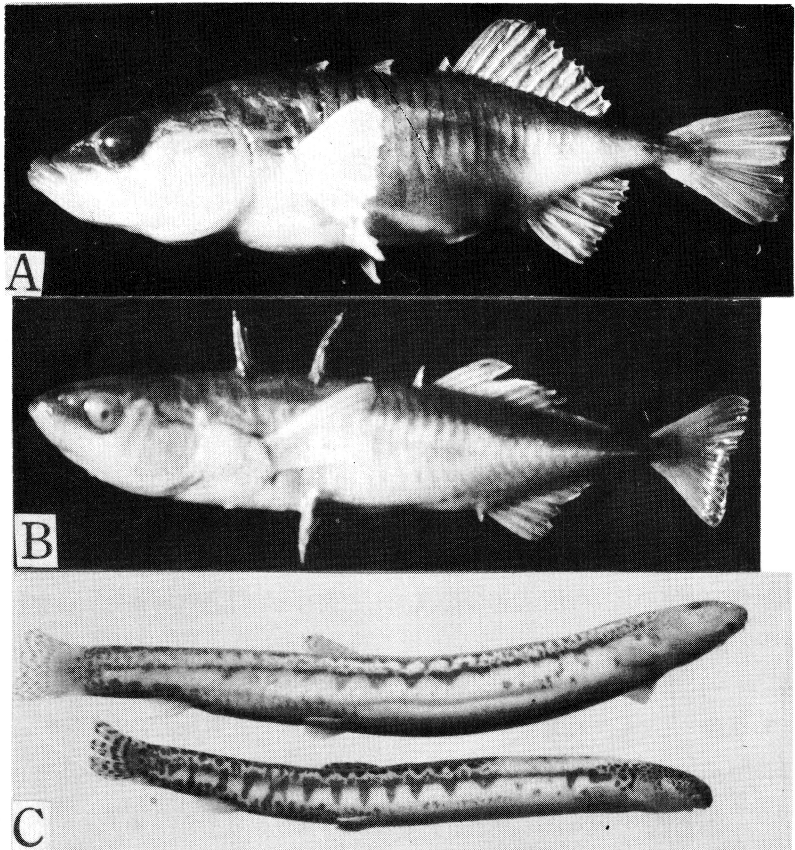


図1. A. 陸封型イトヨ 全長 65 mm
B. 降海型イトヨ 全長 83 mm
C. アジメドジョウ 全長 98 mm(上)

(武生高等学校 教諭)